



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

パプアニューギニア独立国

— 2016年度 水産振興・資源管理推進事業 —
(終了時評価—2017年4月)

事業概要

国名	パプアニューギニア独立国
プロジェクト名	定置網漁業に関する試験調査プロジェクト
実施期間	覚書調印 2015年5月13日～2017年3月31日 (評価対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日)
相手国政府覚書署名省庁名及び実施機関	覚書署名省庁： 水産公社 (NFA: National Fisheries Authority) 実施機関： 水産公社

プロジェクト実施の経緯と背景

パプアニューギニア独立国（以下「パプアニューギニア」という。）では、豊富なかつお・まぐろ類資源を背景に外国資本の企業型沖合漁業が発展し、関連の大規模な水産加工場が複数存在するなど、沖合漁業に力を入れている。一方で、沿岸部の漁業開発は長年見過ごされ、沿岸漁民の多くは手釣りや刺し網等の伝統的な零細漁業に従事しながら自給自足の生活を送っており、沿岸漁民の生計向上のための沿岸漁業開発が急務の課題となっている。

それを受けてパプアニューギニア政府水産公社（以下「NFA」という。）は、事業計画(NFA Corporate Plan 2014-2018)において、沿岸漁業の開発による経済強化、市場へのアクセスや輸送手段の確保等を通じた小規模漁業の持続的な発展を重要な施策の一つとしている。



そこで、NFA は定置網漁業を沿岸小規模漁業の発展に有効と位置付け、東セピック州ウェワクに小型定置網を設置し、試験操業を実施するとともに、その持続的運営や普及に必要な技術面での支援を 2013 年 6 月 25 日付け書簡により、公益財団法人海外漁業協力財団（以下「財団」という。）に要請した。

財団は、パプアニューギニアと我が国との漁業分野における良好な関係確保の観点からこの要請を受け入れ、2013 年 11 月に覚書を締結後、プロジェクトを開始した。

なお、各年度における活動実績は次のとおりである。

1 年目（2013 年度）：メニ定置網（1 号基）に係る操業、運営管理に関する助言・技術指導の実施等

2 年目（2014 年度）：ウォム定置網（2 号基）に係る操業、運営管理に関する助言・技術指導の実施等

3 年目（2015 年度）：ラブミティ定置網（3 号基）に係る操業、運営管理に関する助言・技術指導の実施等

これまでのプロジェクトの結果、各定置網の漁民グループに対する定置網の操業や運営管理に係る技術移転は着実に進んでいるものの、まだ漁民グループ自身による持続的な運営体制の確立には至っていない。NFA はパプアニューギニアにおける定置網漁業の定着と更なる普及を目指しており、財団はパプアニューギニア政府の要請に応えるため、更に 1 年間プロジェクトを延長した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	パプアニューギニアの沿岸漁業が振興される
プロジェクト目標	パプアニューギニア定置網漁業の振興に必要な人材が育成される
成果	定置網操業に必要な人材が育成され、運営管理に必要なガイドラインが作成される
活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定置網操業訓練に関する助言 2. 漁獲データの収集及び解析 3. 定置網運営管理計画作成に対する助言及び指導 4. 上記に関連する技術指導

投 入	財団側 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家： 短期派遣専門家（漁労）1名 実施：2016年5月22日～6月3日（13日） 2016年10月9日～10月28日（20日） 2017年1月8日～1月27日（20日） ・ 事業費： 予算額 10,598千円 実績額 10,548千円（予算対比：99%） ・ 主な資機材： 替え網製作用資材、FRP船修理品及び洗浄ポンプ修理品
	相手国側 <ul style="list-style-type: none"> ・ カウンターパート： NFA 漁業管理部部長 1名 NFA 漁業管理部職員 2名 （2016年4月3日～2017年3月31日） ・ プロジェクト関連予算・土地、施設等： プロジェクト事務所及び資機材等の保管倉庫 定置網操業に必要な海域や土地及び大型資機材

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、パプアニューギニア政府の「NFA 事業計画 2014-2018」に基づく沿岸漁業の開発による経済強化等の政策を支援するものであり、妥当と判断される。

2. 協力ニーズ(対象国、対象地域)との整合性

パプアニューギニア政府は沿岸漁業の発展を重要な施策の一つとしている。特に定置網漁業を沿岸小規模漁業の発展に有効と位置付け、全国（14州）への普及を計画しており、対象国・地域のニーズに合致している。

また、本プロジェクトは、パプアニューギニア沿岸域に設置された定置網の操業・運営管理に関する助言及び技術指導、漁獲データの収集・解析及び関連技術の移転を行い、沿岸漁業の振興を図るものであり、パプアニューギニア政府の方針に沿ったものである。

以上のことから、本プロジェクトは協力ニーズとの整合性は高いと判断される。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトが対象としている定置網は小型のものであり、周辺の環境に与える影響は極めて小さい。また、定置網は拠点となる岸壁から目視可能な場所に設置されており、常時監視を行っていることから万一の流出等の事故にも直ちに対処することが可能となっている。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは試験的に設置された小型定置網に係る操業・運営管理に関する助言及び技術指導、漁獲データの収集・解析及び関連技術の移転を行うものである。定置網は、魚群の来遊を待つ受動的な漁業であり、水産資源に対する負荷は限定的である。また、収集されたデータは、今後沿岸域に来遊し漁獲される魚等の資源管理に活用されることが期待される。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

◆ 効 率 性

1. 事業費及び実施期間

事業費は予算額内に収まり、実施期間は計画どおりとなったことから、効率性は高い。
(予算及び計画対比：事業費 99%)

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

本プロジェクトの活動計画策定にあたっては、実施に先立ち、既存の定置網の操業状況を確認するとともに、NFA 総裁やカウンターパート、漁民グループ及び州政府水産局などの関係者と打合せを行い、現地の事情や要望を十分調査した。

そうして策定された活動計画に基づき活動を実施したため、資機材の供与、専門家の派遣は、NFA 側の要望及びプロジェクトの進捗に沿って適切に実施された。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

これまでのプロジェクトの結果、特にウェワク地区では漁民グループ内で網の修理や調整等に対応することができるリーダーとなる漁民が複数名育っており、技術移転が適切なレベルで行われ、順調に進行している結果と言える。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

専門家の出張毎にプロジェクト関係者会議を開催し、プロジェクトの進捗や今後の活動計画の確認を行っており、必要に応じて活動内容の変更を行った。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

2017年2～3月にかけて、ウォム定置網の漁民3名（財団研修事業）及びNFA職員1名が来日し、定置網漁業の海洋実習、網仕立、加工・流通などに係る研修を受けた。研修内容を現地で必要な技術レベルに合わせて、研修効果を高めるために、研修期間中は専門家が同行した。

本研修に参加した研修生は、定置網漁業に関するより高度な知識や技術を有する現地のリーダー格となる漁民としての活躍が見込まれ、今後パプアニューギニアにおける定置網漁業の更なる普及や定着に寄与することが期待されている。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：パプアニューギニア定置網漁業の振興に必要な人材が育成される

パプアニューギニア政府は、同国での初めての試みである定置網の普及や定着について、これまでのプロジェクトを通して、その知見を収集・蓄積することができている。

そして、特にウェラク地区の一部の漁民は高い知識や技術を有し、自分たちで網の修理や調整等に対応できるまで育っている。また、ラエ地区においても技術指導は順調に進行している。

よって、いずれの地区の漁民も、通常の操業については問題なく実施できるようになっているものの、突発的な事態への対応等の応用動作や資金管理などの運営面で課題を残しており、まだ漁民グループ自身による自立的・持続的な定置網の操業・運営体制の確立には至っていない。

以上より、プロジェクト目標の達成のためには活動の継続と更なる知見の収集が必要となっており、達成度は中程度といえる。

2) その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

(1) 定置網操業訓練に関する助言

専門家が各地区を巡回し、カウンターパートや漁民に対して実地での操業実習やモデル定置網作成などの講習を通じて必要な助言及び技術指導を行った。

(2) 漁獲データの収集及び解析

漁民グループにより漁獲・生物学的データの収集が実施されていることを確認した。また、収集されたデータは、カウンターパートが取りまとめを行い、魚種・漁獲の傾向や毎月の販売動向について分析が行われた。



【ラブミティ・コミュニティでのモデル定置網製作実習】

(3) 定置網運営管理計画作成に対する助言及び指導

各定置網の漁民グループ毎に、定置網の操業・運営管理に係るガイドラインが整備された。また、そのガイドラインは、関係者会議での意見交換に基づき、適宜その内容に修正を行った。



【ラブミティ3号定置網メンテナンス訓練 (OJT)】

(4) 上記に関連する技術指導

今般、メニ定置網の再開にあたって、猪口網から落とし網への網の改良・設置に係る技術指導を行った。また、ラブミティ定置網の替網作成に係る技術指導を行った。

<期待された成果>

定置網操業に必要な人材が育成され、運営管理に必要なガイドラインが作成される

ウェワク、ラエでは、定置網の導入時期が異なるため、漁民の技術レベルに差があるものの、両地区での人材育成は着実に進んでいる。しかしながら、突発的な事態への対応等の応用動作や資金管理などの運営面で課題を残している。なお、各定置網の漁民グループでは、それぞれのガイドラインが作成されている。

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

プロジェクト目標である「パプアニューギニア定置網漁業の振興に必要な人材が育成される」の達成に向けて、着実に前進している。

今後、本プロジェクトが更に進捗し、パプアニューギニアにおいて定置網技術が確立されるとともに、定置網漁が全国の沿岸域に普及することで、上位目標である「パプアニューギニアの沿岸漁業が振興される」に大きな効果を及ぼすことが見込まれる。

今年度は、新たに網を導入せずに、既存の3基の操業・運営管理指導に注力することで、持続的運営に係る技術の定着を図ることができた。今後も継続して技術指導を行いながら、新しい地域に定置網を普及させて試験を行い、更なる知見を収集することによって、上位目標である沿岸漁業の振興に繋がることが期待されている。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

NFAは、本プロジェクトにより、沿岸漁業代替漁具の導入のための技術情報は蓄積されつつあるとの判断を示している。パプアニューギニアでは、経済発展とともに都市部の現金収入者が増加しつつあり、この消費者に十分な量の水産物を提供するためには、伝統的な漁労活動だけでは不十分である。この点において定置網が導入されることの社会的・経済的な意義はきわめて大きい。また、それがもたらす沿岸漁民への現金収入の機会の提供の効果も大きいものになることが見込まれる。

3. その他(ターゲットグループに対するインパクトやプロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

パプアニューギニア政府は定置網漁業を沿岸漁業の振興に有効と位置付け、国内14州への定置網の普及を計画している。

ウェワクの定置網漁民の中には、ラエにおけるラブミティ定置網の設置や替網製作の際に指導者として派遣された者もあり、今後の定置網の普及を担っていく人材は確実に育ってきている。

また、本プロジェクトで使用している網やパイプ船等の主要機材は、NFAが自己資金にて調達しており、適切に維持管理されている。財団の供与資機材は、FRP船や網の洗浄ポンプなど補助機材だが、NFAの主要機材とともに、NFAが主体的に維持管理しプロジェクトの実施地域や新規の漁場調査で活用され、プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

全国の沿岸域への定置網導入は、これまでも NFA が主体となって実施しており、プロジェクト終了後も本プロジェクトによって技術を習得したカウンターパートや漁民を中心として、パプアニューギニアにおける定置網の持続的な運営や普及活動が図られるため、プロジェクトの効果は持続される見込みである。



【第 11 回ウェワク定置網プロジェクト関係者会議】

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上